

2022年11月7日

2023年3月期第2四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

損益計算書（連結）

単位：百万円	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	28,477	30,172	1,694	6.0%
営業利益	2,657	2,879	221	8.3%
経常利益	2,743	2,987	244	8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△2,796	2,346	5,143	—

増収・増益要因

- ✓ 医療用医薬品事業では産婦人科領域において「レルミナ」が前年に引き続き大きく伸長したほか、「フリウェル」が順調に伸長し、本年6月に発売した「ドロエチ」が大きく実績を牽引しました。内科領域においては「リフキシマ」が2桁増収し、「チラーヂン」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業では飼料添加物等の売上が好調に推移しました。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	25,619	26,851	89.0%	1,231	4.8%
アニマルヘルス事業	2,791	3,234	10.7%	443	15.9%
その他事業	66	86	0.3%	19	29.7%
合計	28,477	30,172	100.0%	1,694	6.0%

主要製品売上高

単位：百万円

領域	区分	製品	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期		2023年3月期計画		ご参考	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	期初計画	
内科	AG	カンデサルタン類 ※1	6,259	5,477	87.5%	10,697	86.3%	10,840	薬価はダウンしたが数量ベースは維持
	先発品	チラーチン	3,790	3,921	103.5%	7,706	102.8%	7,714	2022年7月 ブランド誕生100周年
	先発品	リフキシマ	2,464	2,757	111.9%	5,500	113.3%	5,289	
	先発品	メルカゾール	751	761	101.4%	1,467	100.6%	1,440	
	GE	アムロジピン	555	465	83.8%	937	87.3%	963	
産婦人科	先発品	レルミナ	3,703	4,524	122.2%	9,671	131.9%	9,779	2021年12月 子宮内膜症適応追加
	AG	フリウエル	1,667	1,765	105.9%	3,276	94.6%	3,083	薬価はダウンしたが市場の拡大により増加
	GE	ドロエチ	—	1,279	—	3,023	—	1,944	2022年6月 1社単独発売
	先発品	アンジュ	446	420	94.2%	859	100.5%	896	
	先発品	ルテウム	298	569	190.6%	979	148.1%	836	2022年4月 不妊治療保険適用開始
	先発品	マグセント ※2	467	309	66.2%	644	75.7%	682	新薬創出加算返還
泌尿器科	GE	リュープロレリン ※3	2,520	2,619	103.9%	5,018	96.8%	4,589	

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

2023年3月期業績予想（連結）

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 予想（修正）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	56,607	57,500	60,000	3,392	6.0%
営業利益	4,795	4,200	5,200	404	8.4%
経常利益	4,880	4,300	5,300	419	8.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,290	3,300	4,200	△90	△2.1%

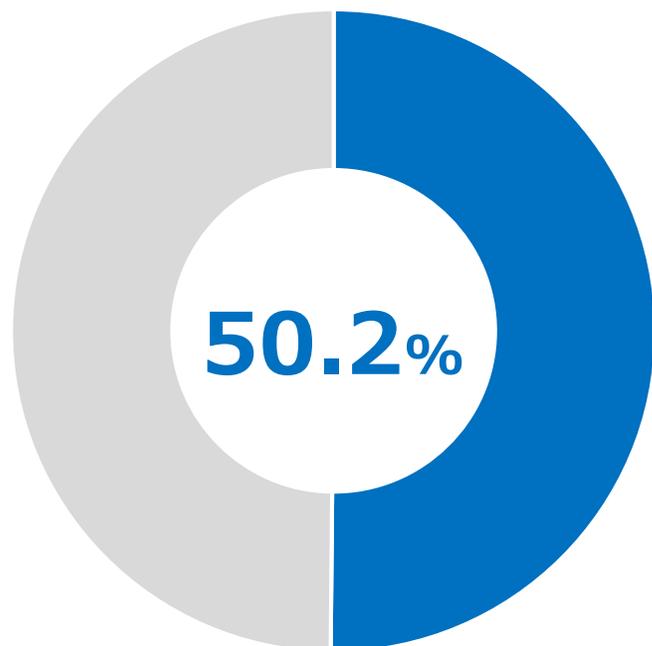
要因分析

- ✓ 売上高は医療用医薬品事業での産婦人科領域製品群が好調であることに加え、アニマルヘルス事業における飼料添加物等が堅調であることから前回発表を上回る見通しです。
- ✓ 利益面は増収効果により営業利益、経常利益とも前年度を上回る見込みです。
- ✓ 当期純利益については、前回公表値を上回り、特別損失・特別利益の影響があった昨年度と同水準となる見込みです。

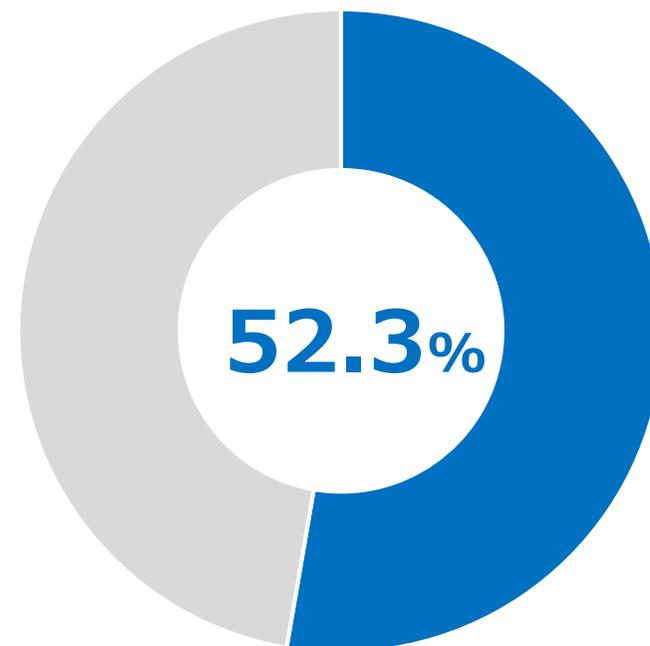
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2022年3月期 第2四半期



2023年3月期 第2四半期

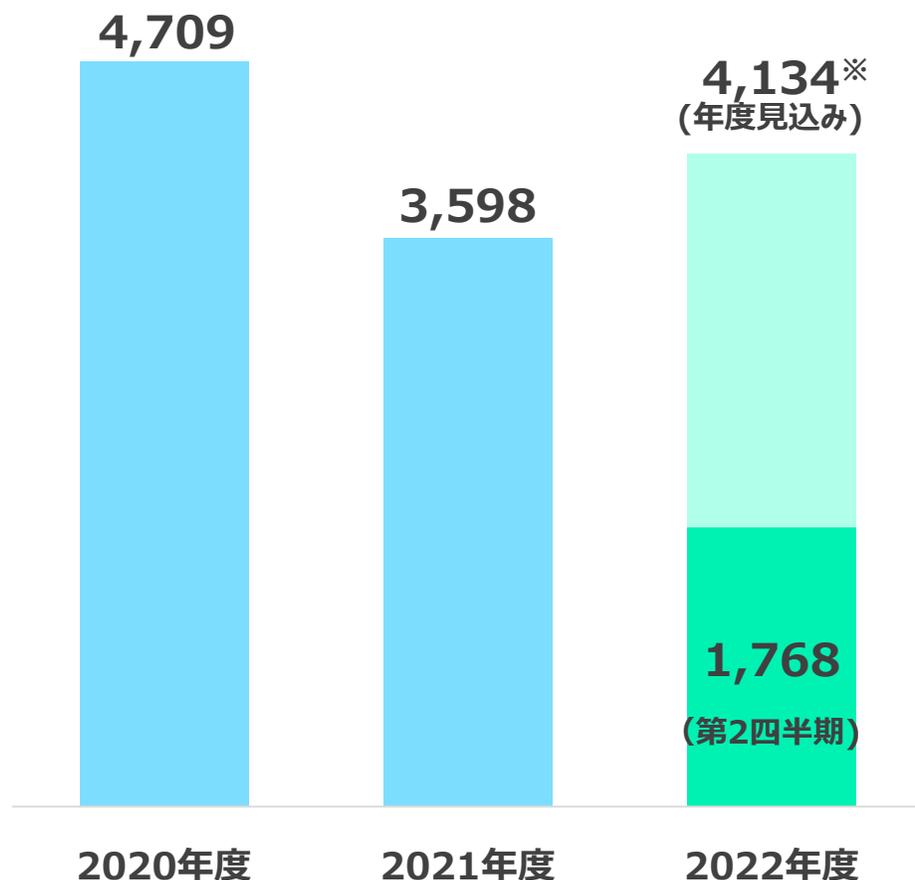


レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は2.1ポイント上昇しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2022年11月7日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	Ph III
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
(オプション契約) 子宮頸部異形成治療薬 キノファーマにて開発中	Ph I / II (韓国)
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	Ph II / III
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II
レルゴリクス配合剤 子宮筋腫	開発準備中

AKP-009 高用量で追加のPh I 試験を終了 (2022年4月)
TRM-270 Ph III 試験を開始 (2022年11月)

※期初公表より修正